

議員（渡邊 美喜子）

おはようございます。

11番、渡邊 美喜子、一般質問をさせていただきます。

質問は、児童の体力や運動能力の低下についてであります。

先日行われました幼・小・中の運動会では、日頃練習の成果を十分に発揮し、みじんも体力や運動能力低下を感じさせない素晴らしい運動会、感動のある運動会でありました。

しかし、巡回パトロールを何年も実施していますが、子供たちが外で遊んでいる姿を余り見ないように感じます。

昔は、外で遊ぶのがメインで、虫取り、川遊び、空き地で草野球、ドッジボール、サッカーなどが主流でありました。

放課後の過ごし方が変わってきているように思います。

その原因は、ゲーム、テレビなどの室内遊びが多く、体を動かす時間が減って、その上、保護者や大人の認識の中で学力を重視する余り、外遊びやスポーツを軽視する傾向が強まっています。

また生活が便利になり、生活様式が変化して運動不足が常態化し、さらに睡眠時間や食生活などの生活習慣病の乱れ、道路や広場の身近な遊び場の減少、塾、習い事で遊ぶ時間の減少により、運動習慣の未定着などが上げられると思います。

調査によりますと、休日、放課後の過ごし方で「体を動かす外遊び」と答えた児童は50%を割っております。

一方で、ゲームをしている男子は90%、女子は78%に上ります。

その中で、男子の25%は実に4人に1人が1日2時間以上ゲームに集中している結果が出ております。

また、全国体力・運動能力調査（全国体力テスト）において、県内の小学5年生の体力合計点は男子で53.15点（全国平均53.92点）、女子54.96点（全国体力テスト55.54点）で、男女ともに全国順位は男子36位、女子34位で4年連続全国平均を下回っており、男女とも過去最低の順位であります。

そこで質問をいたします。

一問一答方式ということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

1点目でございますが、本町における児童の体力、運動能力調査について伺ひます。

教育長（田尾 勝）

渡邊議員の本町の児童の体力や運動能力の低下についてのご質問にお答えします。

5月20日には、町内小学校で運動会、31日には19回目の参加となるチャレンジ

デーが開催されました。

今回のチャレンジデーでは、58%の町民が15分以上の運動を行い、恒例となっている朝の一斉ラジオ体操では、町内7カ所に2,880名の町民の方々が参加しました。

子供から地域の高齢者の方々まで、幅広い階層の方々が参加したラジオ体操でした。

多くの人々の参加を得て、大人、子供も問わず、スポーツをすることの大切さと運動ならではの一体感を味わえた一日だったと思います。

その際には、議員の皆様にも参加、ご支援いただいたこと、まずもって厚くお礼申し上げたいと思います。

さて、議員のご指摘の本町の児童の体力、運動能力の低下については、毎年学校で実施している「全国体力・運動能力等の調査」が手がかりになります。

この調査は、児童・生徒の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育、スポーツ活動等、行政上の基礎資料として広く活用するために実施されるものです。

内容は、実技に関する調査と質問紙による調査からなります。

実技に関する調査は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、シャトルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ボール投げです。

平成28年度の調査結果を全国平均値50点としたときの総体的な位置を得点化したデータを見ると、先ほどの8つの実技を合計した場合、男子の場合、全国50に対して多度津町は49.1でした。

女子の場合、全国50に対し、多度津町は46.3という結果でした。

男女とも全国平均より若干低いという状況でした。

実技別に見れば、町内5年生男子のシャトルラン、立ち幅跳び、反復横跳びは全国平均を上回り、それ以外は下回ります。

女子の場合は、シャトルラン以外では全国平均を下回りました。

こうしたことから、男女とも全身持久力は全国より上回っていると言えます。

また、香川県のデータを経年比較すると、小学5年生の体力の合計点だけでなく、多くの種目で28年度、昨年度は最近8年間では波はあるものの低くなっている傾向が見られます。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

今のご答弁で、多くの種目が最近8年間までにおいて低下傾向にあるということをお聞きして、次の質問に移らせていただきます。

体力や運動能力低下について、どのように捉えていますか、お願いいたします。

教育長（田尾 勝）

議員の質問にお答えします。

議員ご指摘のとおり、外遊びの減少、ゲームなどの室内遊びの長時間化、子供と大人の便利さを求めるライフスタイルによる運動不足が体力や運動能力の低下の背景にあると考えます。

体力は、病気への抵抗力を高めたり、意欲や気力を充実させたり、豊かな生活を送る上で本当に大切な要素だと考えています。

そのため、体力等の低下は注視すべき課題であると考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

今のご答弁も体力等の低下は注視すべき課題であるというふうにいわれて答弁がありました。

そこで、3点目の質問にさせていただきます。

子供の体力、運動能力の向上への対策はどのように実施していますか。

幼稚園、小学校、中学校の発達段階において、指導方法についてお伺いいたします。

お願いいたします。

教育長（田尾 勝）

子供の体力、運動能力の低下を防ぐための対策について、低下を防ぐためには家庭、地域、学校が連携を図りながら、「早寝、早起き、朝ごはん」といった生活習慣を身につけさせたり、幼児期から日常的に運動に親しむ運動習慣を身につけさせたりすることが、低下防止の基本となる対策だと考えております。

議員ご指摘のとおり、そのためには学校の果たす役割は非常に大きいなあと考えています。

学校では、長期的な見通しをもって、幼・小・中が発達段階の特性を踏まえながら取り組んでいく必要があると思います。

例えば、幼稚園では遊びを通して、体力・運動能力を高めることから、遊び込むことのできる環境づくりと時間の確保を行っています。

園児は、次第に一人遊びから集団遊び、室内の遊びだけでなく、進んで外遊びを行います。次第にその時間は増えていきます。

親子との触れ合いの中で、この運動はこの時期に特に大切です。

小学校の低学年までは、外遊びの最適年齢といえ、自然に親しむ、体を動かす、五感を磨く、こうした経験は体力づくりや情操を育みます。

続いて、小学校では生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるための体育の時間だけではなく、朝の時間、行間の時間を活用して縄跳びやマラソンなどに継続して取り組む全校的に運動する場をつくり、多くの仲間と協力、競い合いながら運動を楽しんでいます。

毎日の徒歩による通学も大切な運動ともなります。

続いて、中学校では健康の保持、増進のための実践力と体力の向上を図るため、保健体育の授業、部活動などの競技スポーツにも関心を持ち、自分の特性や意向をもとに運動・競技を選択して、個性の伸長と体力・精神力・規範意識を育てていくこととなります。

次第に自主的な運動習慣を確立していく時期に当たります。

以上の各段階で、学校間で連携を図りながら、科学的な知見も得ながら、「体力づくり」に着目した取り組みが進められるよう、学校を支援していきたいと考えています。

以上、答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

実は、一般質問の原稿を出した後なんですけども、町内の小学校の校長先生の文面が載っておりました。

私の一般質問と同じような考えで載っておりますので、ちょっと読ませていただきます。

体力の低下が懸念されている今の子供たち、この学童期に体を動かすこと、元気に外で遊ぶこと、運動が好きになることのメリットは大きいということです。

体力の向上や生活習慣の改善効果だけではなく、多くの子供たちの遊び、また友達が増えるとコミュニケーション能力が自然と高まり、集団生活を送る上で優位的に保っていく。

自然に親しみ、体を動かし、五感を磨く、こうした経験は体力や情操面だけでなく、後の学力を伸ばす支えになることになるということを述べられている面を読みました。

そして、そんな中で、やはり体力がつき、食欲が旺盛になり、ほどよく疲れてよく眠る、体温が上がって免疫力がアップし、病気にかかりにくくなる、運動には多くの効力がある、期待できるともこの文章に書かれておりました。

そして、最後に保護者、学校、地域が連携して、子供たちに積極的に関わり、息の長い取り組みを続けていきたいものですという校長先生の文面でありました。

余りにも今回の一般質問と合致する点がありましたので、読ませていただき

ました。

そこで、今の答弁も含めましてですが、体力、運動能力についてはいろいろと幼・小・中で年齢ごとに取り組んでいることは理解できます。

しかし、今の時代の流れというのか、ライフスタイルが全然変わってきてる中で、やはり行政としてもう一步進んだ施策が必要と思いますが、いかがでしょうか。

教育長（田尾 勝）

渡邊議員ご指摘のもう一步進んだ行政としての施策という事柄について答弁させていただきます。

渡邊議員さんが今紹介した学校だより、まずは今回の全国体力テスト、体力の調査、これについて単に実施してデータを分析して、本当に各学校のデータもしっかり分析しております。

そして、分析をもとに町の教育委員会が指導すべきこととか、まずは学校が指導すべきこととこのを明確にしながら、今回の調査が有効に活用できるように、そういうシステムで毎年改善が図られています。

学校におきましては、今回のデータをもとに、小学校も中学校も保護者、家庭に対してもこういう課題があって、こういうことの運動が大切ですよというようなことの説明を差し上げているということを知っております。

本当に家庭、学校、教育委員会が一丸となって子供たちの体力向上、そして運動能力の高揚を進めていきたいなというふうに思います。

一步進んだ施策ということで、次の課題については、よく学校現場の意見を聞きながら、例えばやはり運動の施設、設備とか備品とか、そういう事柄についても意見を聞きながら、現場の要望に添えていくということも大切になってくるのかなあというふうに思っています。

以上です。

議員（渡邊 美喜子）

その中で、一步進んだ施策という部分でございますが、一応全国的にどうしているのかということで、私なりに調べさせていただきました。

その中で、丸亀の郡家小学校は校庭の芝生化ということで、これは多くの丸亀市の小学校全域に広めていくという方針だそうです。

予算等もかかりますが、郡家小学校では運動場を芝生化して、そのために子供たちがものすごく喜んで体を動かす環境になっているということも施策の一つじゃないかなというふうに思っております。

それから、次の自治体におきましては、体力向上委員会を立ち上げまして、児童一人一人の体力テストの結果を入力し、目標値、アドバイスを表示する

体力のプロフィールシート、いわゆる体力のカルテを活用して指導しているというところもあります。

これも多度津町もやっているとは思いますが、そしてまた体力向上に向けた教師用指導資料の作成ということで、リーフレットやポスターなどの啓発、体力向上に成果を上げた優良校の表彰なども行っているということをお聞きしております。

また、朝食摂取100%のための指導ということで、誰でもつくれる朝御飯メニューということで、これは家庭のほうへ啓発しているということでございまして、学校の保護者の集会とか総会におきまして講演をしている。

その講演の内容は、子供の外遊び、スポーツの重要性のお話だったり、また生きるための力、体力低下、ひいては気力、意欲の低下、集中力の欠如、精神的にも悪影響を与えるということで、こういうことも保護者の方に講演しているということでございます。

そして、スポーツ少年団とか部活の必要性、そして遊び場の確保等もやはりこういう講演のときに遊び場の確保をしてほしいとか、広場があればいいのにといい意見としてこれは出ているそうであります。

全体的にそういう部分も含めまして、次の質問をさせていただきます。

運動をよくする、全くしない子供の格差があり、二極化傾向にあると指摘されています。生活習慣病につながる危険性を有しているが、現在どのように対処しているのか、今後どのように対処していくのか伺います。

教育長（田尾 勝）

運動の二極化傾向、そして生活習慣病につながる危険性についてのご質問にお答えします。

まず、生活習慣病の危険性について、どのように対応しているのかということです。子供の生活習慣病に係る正確な実態把握が必要であるため、毎年小学校4年生ですけれども、対象に血液検査、食事習慣、睡眠時間、そして運動調査について、医師の協力を得ながら実施しております。

この27年度の調査結果によると、肥満、痩身、脂質異常、糖尿病の疑い、肝機能異常、起床時間、就寝時間、ゲームの時間、食事の早さについて、これを多度津町の場合、県平均と比べてみますと、本町の男子児童は4年生ですけれども、全てに県の平均より良好な傾向が見られました。

女子児童は、ゲームの時間が多く、やや肥満傾向が見られるというような傾向が見られました。

検査が出た後は、学校のほうで養護教諭や栄養教諭等が健康指導や栄養指導についても個別とか全体指導を通してアドバイス、助言をしたりしております。

また、保護者の判断により、医師にかかるということもあるというように聞いております。

それともう一点、二極化についても質問があったと思うんですけども、二極化については、この傾向は平成28年度の全国体力・運動能力の調査で、質問紙の中に1週間の総運動時間はどのくらいかということで、町内の5年生の場合、ゼロと回答した児童が6.7、もちろんこれは体育の時間は除いてなんですけども、6.7%、それに対して全国は2.9%、やはりゼロと回答した子供たちが少し多いかなあというように思いました。

7時間以上を費やしているのが町内で52.9%、約半分ということで、対して全国は55.9%、これも7時間以上は若干少ないということがわかります。

女子の場合、ゼロと回答した児童が6.2%、全国は4.0%、これもゼロと回答した児童が女子の場合、多いと。

7時間以上の場合が町内30.9%に対して、全国は7時間以上が32.8%でした。

これを見ると、1週間で運動時間ゼロと回答した児童の割合が男女とも全国に比べて高いということがわかります。恐らく、スポーツクラブやスポーツ少年団に入り、運動する機会が多い児童と運動する機会が皆無に近い児童がいるということがわかります。こうしたことも大きな課題ではないかなあというふうに思っています。

ちなみに、中学校の場合を見ますと、生徒の運動時間の格差は本当に大きいものでした。

中学2年生の女子で、運動時間ゼロの生徒の割合が19.6%、5分の1ということになります。

7時間以上が55.4%、男子の場合、ゼロが2.2%、7時間以上が75.6%、そうしたことが課題であると。

中学校の場合、中でも男女でも大きな傾向の違いが見られるということがわかります。

対処の方法ですけれども、先ほどの答弁のときにもお答えしたんですけども、全国規模の調査をよく吟味して、学校の課題とか子供一人一人の課題とかよさを把握して、指導法の改善やこれから環境の改善に努めることが大事な事柄ではないかなあというように考えています。

家庭、地域、学校では、それぞれの機能を生かして体力、運動能力の向上に努めるように学校を十分に支援していきたいなあと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

議員（渡邊 美喜子）

運動しない、ゼロという本当に考えられないような児童、子供たちがいるということに、そういうところにやはり手を差し伸べるという部分が必要か

な、それが行政として一歩進んだ施策じゃないかなと思っております。  
そういう部分をいろいろと施策はしているんですけども、うまくそれにつな  
がってないという分をそのままいきますと、やはり運動嫌いとか、そして運  
動不足も含めて肥満、ひいては将来のことを考えますと、糖尿とか心臓病と  
か生活習慣病に命に関わってくると思いますので、そういう部分を個々の子  
供たち一人一人の分を分析していただければなと思っております。

そこで、実はなかよし教室、毎週木曜日に学校放課後ということで、私も時  
間があれば参加させていただいているんですけども、公民館の図書室で宿題  
をして、その後希望があれば外でということで、学校の了解を得まして第2グ  
ラウンドでドッジボールをしたり、そしてサッカーをしたり動いています。  
すごく子供の目がきらきらと輝いて、いろんな部分で、ああこういう部分が  
やはり運動好きになるのかな、全然参加できない子供も正直言っていました。

おばちゃんと一緒に参加しようということで、ドッジボールを参加したんで  
すけども、次の日は本当に大変でしたが、でもそういう部分も含めて大切な  
ことかなと思っております。

なかよし教室も含めまして、いろんなところで地域でもマラソン大会とか、  
そういう分もございます。それぞれの学校でマラソン大会、幼稚園、保育  
所、そして小学校もやっておりますが、私たち応援しましょうということで  
募集しまして、旗をつくりまして、のぼりをつくりまして、大きな声で応援  
しております。

そんな部分も子供にとったら一番最初、私見学したときは外へ走るんですけ  
ども、途中で諦めて歩く子供が何人かいました。

2回目は、これではいけないと思いまして、たくさん地域の人を集めよう  
と、応援しようということで参加していただきますと、途中で休む子は一人  
もいません。

最後まで走りました。

そういう部分も学校、そして地域、保護者の理解があつてうまくこういうゼ  
ロの子がいなくなるんじゃないかなというふうに思っておりますので、一歩  
進んだ行政の対策ということで、今後とも、先ほどいろんな自治体につきま  
して述べましたが、一つでも参考になるか、またそのとおりするんじゃないか  
なくても、多度津町に合ったような施策が必ず見つかるんじゃないかなとい  
うふうに思っております。

予算をかけなくてもできるような施策、地域ぐるみを含めまして、そういう  
ことになろうかと思っておりますので、どうか教育委員会を初め、皆さんよろしく  
お願いし、私の一般質問は終わりにしたいと思っております。



ありがとうございました。

教育長（田尾 勝）

ひとつだけ、運動時間ゼロということで、これはとりもなおさず学校では体育の授業とかそういうことの時間は当然とおるわけですから、ゼロというのは家庭での、あるいはもしかしたら地域かもわからないですけども、運動時間がゼロということで捉えていただけたらありがたいなあというように思います。

そのためには、家庭とか地域のできる運動習慣が身につけるような場づくりが大切なんではないかなあというように思います。

今、議員さん言われたように、児童クラブのところでそういう運動をするということも大切な事柄ではないかなあというように思いました。

すみせん、失礼しました。

議員（渡邊 美喜子）

いろいろとありがとうございます。

終わります。